様式3

令和8年8月28日

令和8年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間・最終 ）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	（貫）9年間を通して，確かな学力を育成する	（貫生徒の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善	・教師アンケートの肯定的評価「授業でICTを活用し，学びを深める授業を実践した」は100%，「三角ロジックを使い，『生徒が自分の考え・理由を明らかにし，わかりやすく伝える』授業を実践した」は67%であった。各教科において三角ロジックの活用場面を共有する等，職員の研修不足が課題である。 ・生徒アンケートの肯定的評価「授業では自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している」は，88%（1学年94%，2学年93%，3学年79%）で目標値80%を上回るとともに，昨年度よりも高くなった。学年別に見ると，3学年の数値が低いことが課題である。理由や根拠をもとに表現する活動を継続的に取り入れてきたが，3学年では，それらを「発表を工夫すること」として十分に実感できていない可能性がある。 ・「全国学力・学習状況調査」は，国語・数学ともに全国平均を上回り，平均正答率は高い結果となった。昨年度の結果を踏まえた学習指導の改善が適切に進められていると考える。	・「ICT」を効果的に活用した授業を継続的に実践するとともに，生成AIの適切な活用方法について教職員同士で情報共有・交流を行い，授業改善に活かす。全教員が「三角ロジック」を取り入れた授業を実践し，授業交流を通して指導力の向上と授業改善を推進する。 ・引き続き，すべての学習活動において「三角ロジック」を活用し，根拠を用いた表現活動を行う。また，発表の工夫を具体的に示すとともに，他者の発表から表現の工夫を学び，振り返りを通して自らの工夫を自覚できるようにする。 ・「全国学力・学習学習状況調査」の今年度の結果を分析し，学校全体の取組とするための研修を行い，全教科での授業改善・充実を図る。
		妥当性，信頼性を高めていく評価改善	・1学期は校内授業研究を実施していないため，授業観察者による評価数値は得られていない。一方で，生徒アンケートにおける肯定的評価「学習の振り返りをするときには，『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています」は，前年の87%から92%へと向上した。このことから，教師が意図する「次の学びにつながる振り返り」が，生徒におおむね浸透し，その意義を実感できているものと考えられる。	・各教科等において，「振り返り」のねらいを明確にし，生徒が「次に取り組みたいこと」を考えることができる振り返りを実践する。また，研究協議等を通して，効果的な「振り返り」の方法について各教科等の実践を共有し，授業改善につなげていく。さらに，生徒が「もっと考えたい」「もっと調べたい」と思えるような「めあて」や「課題」を設定するなど，主体的な学びを促す授業づくりの工夫に努める。
★★	（貫）礼節と挑戦心を身に付け，健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展	・生徒アンケートの肯定的評価「生徒会，委員会の提案する活動に積極的に協力しています」は96%（1年88%，2年100%，3年100%）と目標値（90%）を上回った。1年が低くなっているのは，小学校から中学校への移行に当たって生活に慣れることに時間がかかり，活動に積極的に関われなかったためだと考える。 ・「挨拶強化運動」や「三点固定」など，生徒会委員会が毎学期に行う定例の取組に加え，「Sunshine Project」や「目安箱の設置」，「防災クイズラリー」など生徒が主体となって企画・運営する取り組みを実施出来た。	・生徒が自主的・意欲的に取り組める生徒会活動を引き続き実施していく。また，実施した生徒会活動を振り返らせることで，自身の取組を肯定的に評価できるようにする。 ・1年が積極的に参加・協力できるように，縦割り班での活動を増やし，2年・3年が1年をサポートできる体制を作る。
		体力の向上	・新体力テストの結果では，体力合計点が増加した生徒は増えたが，目標値を達成することができなかった。総合評価に関しては，評価（A～E）が昨年度よりも上がった生徒は11名で，昨年度よりも多くの生徒が上がった。体力合計点は，2年男子が全員，2年女子と3年男子は1人以外上がっていたのに対して，3年女子は3名が下がっていた。3年女子には伸び悩みが見られるが，その他については着実に体力が付いている。	・2年は，冬場に向けて基礎体力が付くようにトレーニングを実施する。3年は体の成長が進み，体力が付き，体幹等がしっかりしてきた。その体力を生かせるよう，体育の授業等を通して，更なる体力アップを図る。 ・保健の授業で運動や体力の必要性を伝え，運動が得意ではない生徒へのアプローチを心がける。
		不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	・生徒アンケートの肯定的評価「生活リズムを整えて生活している」は73%（1年71%、2年73%、3年74%）で，目標値（85%）を下回り，前回調査より12ポイント低下した。全学年において，メディア利用時間が学習時間を上回り，睡眠時間も十分に確保できていないことが，生活リズムの乱れの一因と考えられる。今後は，学校での継続的な指導に加え，家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着を図る必要がある。 ・生徒アンケートの肯定的評価「将来の夢や目標を持っている」は84%（1年82%、2年80%、3年89%）で，目標値（90%）を下回り，前回調査より6ポイント低下した。特に1・2年生は3年生と比べて将来や進路への見通しをもちにくい状況がうかがえることから，「総合的な学習の時間」を中心に，進路を見据えたキャリア教育の充実を図り，将来の夢や目標を主体的に考える機会を充実させる必要がある。	・面談等を通して生徒一人一人の実態把握に努め，家庭と連携しながら早期の気付きと適切な支援・指導を行う。また，必要に応じてスクールカウンセラー等の助言を得ながら，生徒指導部を中心とした組織的な支援体制の充実を図る。 ・「アメニティー環境推進委員会」を中心に，生徒に関する情報を全教職員で共有し，生徒の状況を共通理解した上で，組織的・継続的な支援に取り組む。 ・「総合的な学習の時間」を中心に，自己の将来や進路について考える機会を充実させ，自分の夢や目標の実現に向けて主体的に努力することの大切さを実感できるよう、キャリア教育の充実を図る。 ・「Qubenaタイム」を効果的に活用し，一人一人の学習状況や課題に応じた個別最適な学習支援を充実させ，基礎・基本の定着と学力の向上に努める。
★	（貫）自己有用感を高め，活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し，地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実	・生徒アンケートの肯定的評価「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」は82%（1年76%、2年80%、3年89%）で，目標値（85%）を3ポイント下回った。3年生は目標値を上回った一方，1・2年生は目標値に達していない。地域と関わる活動がまだ十分に展開されていないことや，自分たちの活動が地域や社会への貢献につながっているという実感をもつ生徒が少ないことが要因として考えられる。 ・一方，保護者アンケートの肯定的評価「地域との関わり」は96%で，目標値（90%）を上回った。学校の地域と連携した取組は保護者から高く評価されていることから，今後は，生徒自身が活動の意義や地域への貢献を実感できるよう，地域との関わりを振り返る機会や活動の価値を共有する場を充実させることが必要である。	「総合的な学習の時間」における各学年の「活動」（1年「落語」，2年「起業企画」，3年「創作劇」）を通して，地域との関わりを意識させ，地域と関わる場をさらに多く設定し，生徒の心を耕し，志をもたせるよう指導する。また生徒の「もくりん防災リーダー」の活動を機能させ，防災に係る活動を通じ，地域との関わりを深める活動を行い，地域に貢献する意欲を育成する。特に，1年・2年では，自分たちの行っている活動が，地域への貢献につながっていることを意識させるように指導する。
		いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりを推進する。	・生徒アンケート「いじめは，どんな理由があっても，いけないことだと思う」の肯定的評価は2・3年生では100%であった。道徳科の授業を中心とした心の耕しや，小中合同で行った「いじめ撲滅キャンペーン」などの取組の成果である。 ・毎月「こころとからだのアンケート」を実施し，SCによる面談，相談窓口の周知などを行った。生徒会活動として，「Friend+1」を行い，周囲の人の良い所を伝え合う活動を行った。	・今後も道徳科を中心として，「いじめは絶対許さない」という心を育む授業を継続して行うことで，生徒アンケート(1年生)の肯定的評価(94%)を改善していく。また，児童・生徒が学年を問わず，よりよい人間関係を築けるようにするために，児童委員会・生徒会を中心に自主的な活動に取り組んでいく。 ・生徒アンケートや全員面談を計画的に実施し，生徒がいつでも相談できる環境を整備する。
		（貫）生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	・生徒アンケートの肯定的評価「防災について家族や地域の方々一緒に活動したりしながら，自分の命は自分で守る力をつけている」は94%（1年100%，2年87%，3年95%）であった。今年度より設問の表現が「家族と地域の方々と関わりながら」から「家族と地域の方々と一緒に活動したりしながら」に変更があり，「活動」という表現になったた、、各生徒が持つ「活動」のとらえ方により，否定的評価が出たのではないかと考える。	・年間計画に沿って，地域と連携しながら災害の学習や自分で考え行動する場面のある避難訓練を積み上げていく。学習後のまとめを丁寧に行い「自分の命は自分で守る」力の定着を図る。 ・各教科の授業や生徒会活動等と連携し，全ての教育活動の中で多面的に防災の取組を行う。
業務改善	（貫）働き方改革を推進する	長時間勤務の縮減に向けた業務改善	・時間外勤務月45時間未満の割合は70%で，昨年度（58%）より増加し，改善の方向に向かっている。 ・「心理的安全性」，「日々の業務の中で充実感を得られている」については肯定的評価の割合は86%であり，目標値（90%）をほぼ達成している。	・組織的な教育活動や業務のスリム化を検討し実施することにより，長時間勤務の縮減を推進する。 ・自分の考えや困りごとなどを安心して周囲に話せ，自分の専門性や経験を生かすことで生徒のために役に立っているという実感を持つことができる雰囲気を醸成する。